2021 年２月号　　２月 15 日（月）発行

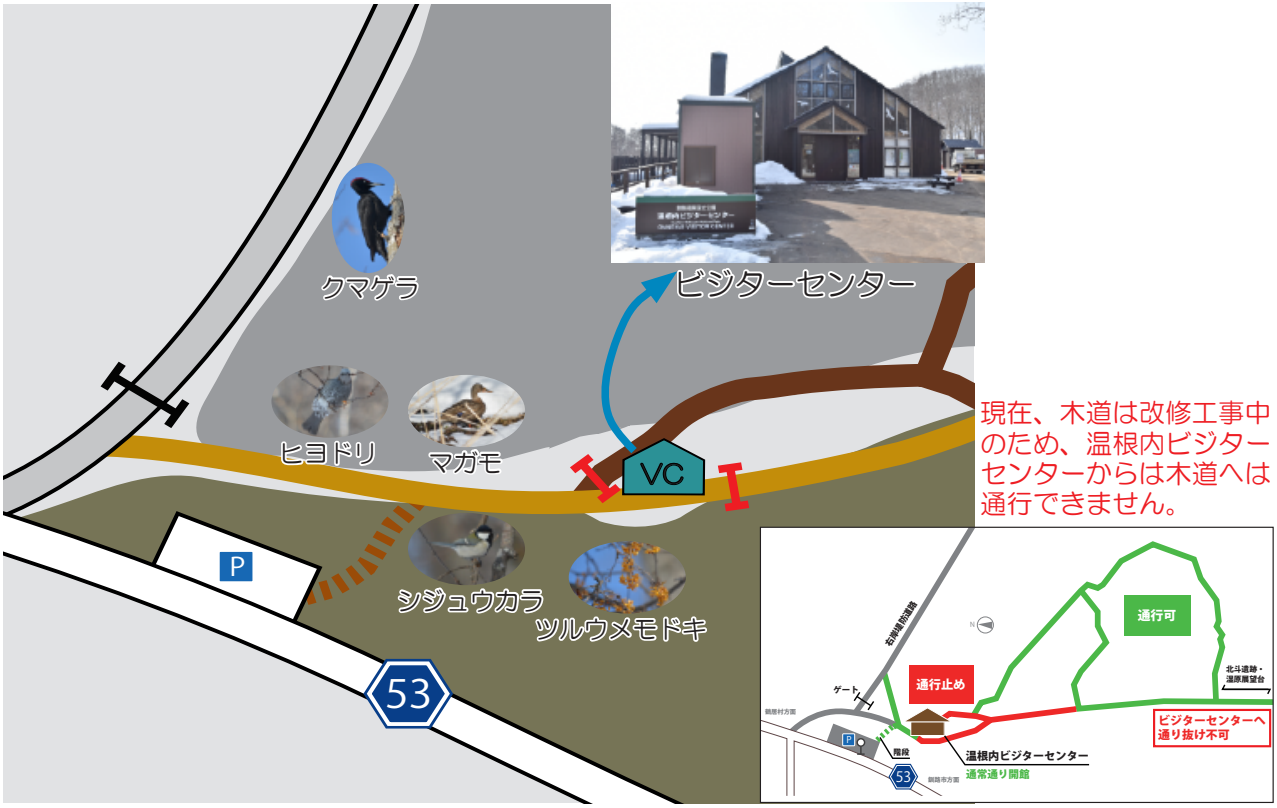
釧路湿原国立公園　　温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 293

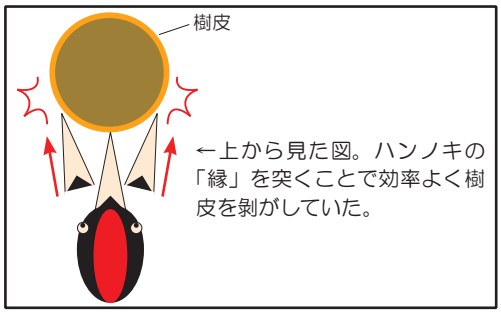
わずかな糧を求めて…

除雪の忙しい日々。釧路地方はすっかり雪に覆われ、動物たちにとっては厳しい季節がやってきました。夜中に餌を求めて歩き回ったのか、雪上にはエゾユキウサギの足跡が残されていました。ツルウメモドキの赤い仮種皮は鳥たちにとって貴重な食糧でしたが、そろそろ完売しそうです。そんな中、わずかな水面からマガモが飛び立っていきました。

☆☆☆温根内ビジターセンター周辺の自然情報☆☆☆



～温根内ビジターセンター周辺の自然～



【クマゲラ】 留鳥　キツツキ科　熊啄木鳥

１羽のオスがハンノキを夢中で突いていました。昨シーズンに続き、時折目撃されています。木の縁をかすめるように突き、樹皮をとても手際よく剥がしているのが印象的でした。こうして樹皮の下に隠れている虫などを食べていました。人間と同じような白・黒の眼をしているので親近感が湧きますが、さすが国内最大のキツツキだけあって、飛ぶ姿はなかなかの迫力があります。絶滅危惧Ⅱ類で、国の天然記念物にも指定されています。

クマゲラが剥ぎ、地面に散乱した樹皮

【マガモ】 留鳥
カモ科　真鴨
写真はメスで、オスとともにわずかに残る水面で羽を休めていたようです。褐色の模様が見事に地面と同化していました。

【ジョウビタキ】 旅鳥
ヒタキ科　常鶸・尉鶸
わずかに残ったツルウメモドキの実をついばむ姿を偶然捉えました。道内での確認は珍しく、見つけたスタッフも大興奮でした。

○表紙の写真 上：エゾユキウサギの足跡　中右：マガモ　中左・下：ツルウメモドキの仮種皮

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（1 月 15 日～２月 14 日）和名は日本鳥類目録第７版の順

■マガモ■タンチョウ■オジロワシ■オオワシ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■クマゲラ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■キレンジャク■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■ジョウビタキ（1/28 温根内初確認）■セグロセキレイ■マヒワ■シメ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

☆☆☆☆　自然ふれあい行事が開催されました　☆☆☆☆

○『アイヌの自然観 ～カムイ編～』２月７日　参加者：９名

釧路アイヌ語の会の奥田氏を講師にお招きし、アイヌと「カムイ」の関係について学ぶイベントを行いました。まず奥田氏からは、人間をとりまくほぼすべてのものがカムイ（= 神）と見なされていたというお話から始めていただき、

色々な動植物の写真や物語などを交えて、アイヌの人々とカムイとのかかわりについてレクチャーしていただきました。アイヌの自然観がとてもよくわかり、参加者は食い入るように講師の話に耳を傾けていました。続いて屋外へ出て、冬のカムイたちの痕跡を探しに出発しました。雪の降る中、エゾユキウサギの足跡や糞が見つかり、講師からはアイヌの用いたウサギ用の罠の仕組みを、ぬいぐるみを使いながらわかりやすく解説していただきました。そのほかにも道中では、ツルウメモドキやケヤマハンノキなど、アイヌの人たちが利用した植物についても触れられ、彼らの世界観とともにその実用的な知識に、参加者は感心しきりの様子でした。

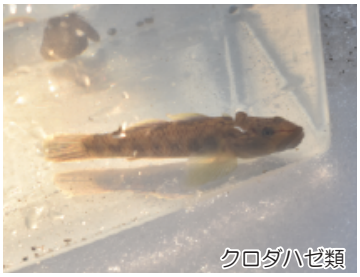
☆☆☆ 体験レポート「達古武（たっこぶ）で冬の沢歩きと沢の生き物観察！」☆☆☆

去る２月６日、環境省釧路自然環境事務所主催「冬の沢歩きと沢の生き物観察！」に参加しました。温根内とは釧路湿原を挟んで反対側にある、達古武湖という湖の近くの沢を調べて、厳冬のこの時期に潜む生物の生態を探るイベントです。達古武湖の周辺は、人工のカラマツ林を自然林に戻していく自然再生事業が環境省によって行われており、本イベントはこの普及教育の一環として実施されました。

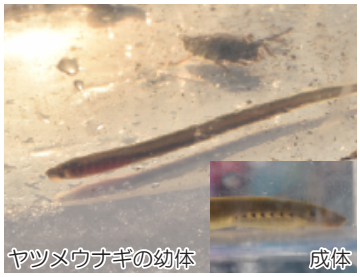
達古武湖に流入する沢を上りながら沢底をゴソゴソと網ですくうと、様々な生き物が見つかりました。トンボやガガンボ、トビケラといった昆虫の幼虫が数多く見つかったほか、ハゼの仲間や、スナヤツメと呼ばれる不思議な生き物も発見されました。スナヤツメは、絶滅危惧種にも指定されているヤツメウナギ科の仲間。吸盤状の口で藻などを食べ、幼体は目が埋もれており、成体になるわずかな期間だけ目があるということもガイドの方から教えていただきました。今回は幼体と成体の両方が捕獲され、その違いもよくわかりました。温根内とは環境も違い、水生生物の種類も随分違うことにも驚き、とても勉強になりました。（温根内ビジターセンター指導員　藤原伸也）

みんなで川底を大捜索！

見つけた生き物を調べます



クロダハゼ類



ヤツメウナギの幼体　成体

モイワサナエのヤゴ

ガガンボの仲間の幼虫

☆☆☆　トピック　温根内から姿を消しつつある植物　☆☆☆

温根内周辺では現在まで、300 種近くの維管束植物を確認しています。しかしこの中には、過去には普通に見られていたのに、現在ではほとんど見られなくなってしまった種もあります。今回はそんな、温根内では希少になってしまった植物を一部紹介したいと思います。

【クロバナロウゲ】バラ科

2019/7/18 撮影

もともと個体数は多くなかったものの、夏のヨシ・スゲ湿原に咲く花の代表格のひとつだった本種。この４～５年で急激に減少し、ついに 2020 年には１株も開花が確認できませんでした。

【オオウバユリ】ユリ科

2017/7/21 撮影

道内の道路沿いなどでも咲いているオオウバユリですが、ビジターセンター裏手に広がる広葉樹林などでも数多く咲き誇っていました。ところが、2013 年の夏にエゾシカによる大規模な食害が発見され、それ以来、温根内からは徐々に花を咲かせる姿は見つけにくくなってきました。

【ツリガネニンジン】キキョウ科

2018/8/19 撮影

こちらも、湿原周辺に青い釣鐘状の花が目を引く植物でした。やや年によって偏りがありますが、鶴居軌道沿いや駐車場からビジターセンターに向かう階段付近に毎年のように見られていましたが、2020 年にはほとんど花を見かけることはありませんでした。

～これらの種が減少した原因は？～

その最大の原因のひとつは、エゾシカによる食害と考えられます*。本誌でも何度か紹介してきましたが、これらの植物に限らず、エゾシカによる食痕はいたる所に見られます。環境省や研究機関によって増えすぎたエゾシカの駆除対策が講じられているところですが、目に見えた効果は現れていません。しかも、見かける機会が減った種は（写真のエゾリンドウなど）今回紹介した植物以外もあり、今後もまだまだ心配な状況です。しかし、植物たちもこのまま黙っているわけでもないようです。花が見られなくなっても、種によっては芽吹きや葉はたびたび確認できており、負けじと復活のタイミングを見計らっているようです。自然と人間活動のバランスの難しさを感じると同時に、植物の強靭さにはいつも感心させられます。

エゾシカに食べられたエゾリンドウの葉

（温根内ビジターセンター指導員　藤原伸也）

*植生変化の原因としては湿原の水位や水質の変化も考えられます。

☆☆☆☆イベントのご案内（３月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

新型コロナウィルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎ 0154-65-2323

♪湿原の裏山でスノーシューハイク

〔日時〕３月７日（日）10：00～12：00　〔定員〕 10 名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料　〔場所〕温根内ビジターセンター

残雪の裏山をスノーシューで歩き、雪解けを待つ植物などを観察します。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪塘路フィールドウォッチング

〔日時〕３月６日（土）10：00～12：00　〔定員〕10 名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料　〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～アイヌ民族と植物～

現在、館内では釧路アイヌ語の会主催の特別企画、「アイヌ民族と植物」を展示しております。アイヌ民族と植物との関わりや、実際の植物の標本、アイヌ語パズルなど、盛りだくさんの展示をしております。ぜひご覧ください。

月刊　温根内通信　No. 293
発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター
〒085-1145　北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/
Facebook：温根内ビジターセンター　フェイスブック
開館時間：9:00～16:00（4 月～ 10 月は 17:00 まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3 は休館）　入館無料